



## 「笹川杯作文コンクール 2012」～中国語で応募～ 第4回(9月分) 優秀賞作品

※原文に忠実に和訳しました。

※個人名の掲載については、本人の了承を得ています。

### 鋭利な刀を捨ててしまわずに

浙江省 袁明滌

鋭利な刀は便利な道具にもなれば、自身を傷つける災いの元にもなる。いずれにせよ、孤島に漂着した人間はその刀を手放すわけにはいかない。生存するため、その刀でイバラを割リトゲを切って食糧を採集し、あばら屋の一つも築かねばならないのだ。

宇宙全体から見れば、この活気あふれる地球も、果てしない海に浮かぶ小島に過ぎない。地球上の人類もまた、孤島の民でしかないのだ。

福島原子力発電所の事故により世界中で“原発の是非”議論が巻き起こり、まだまだ終息しそうにない。しかし、原発を推進すべきか廃止すべきかといった問題は、先の尖った刀捨てるか残すかということと同様に簡単なものだと思う。

エネルギーは世界経済を発展させる基本的な動力であり、人類が依って生きる基礎である。世界の人口は70億人にも膨れ上がり、エネルギー需要も日を追って増加している。現在の消費量から専門家が予測したところによると、石油と天然ガスについては、半世紀も採掘することができず、石炭の採掘も100年から200年がいいところだそうである。人類は深刻なエネルギー危機に直面しており、長期的に供給可能で環境を絶対に汚染しないエネルギーを探し出す必要がある。

太陽エネルギー、風力エネルギー、潮力エネルギー、バイオマスエネルギーなどの新型エネルギーは、エネルギー密度の大きさや持続性に問題があり、その土地に応じた方法でしか開発や利用ができないのである。それでは、誰が人類の発展を牽引する役割を果たすのだろうか。原子力が最も希望の持てる未来のエネルギーなのである。

地球には、核分裂のエネルギー源であるウラン、トリウムなどの資源がかなり大量に埋蔵されている。十分に利用できれば、向こう数千年のエネルギー需要を満たせる量だ。海中には20兆トン以上の核融合エネルギー源—水素の同位元素デューテリウムがある。核融合技術が掌握できれば、デューテリウムの融合エネルギーで恐らく100億年もエネルギー需要を満たせるのだから、無尽蔵とすることができる。

核分裂の連鎖反応のエネルギーを発電に利用すると、低コストで汚染も少ない。1954年、旧ソ連がオブニンスクに原子力発電所を建造して以来、全世界で運用中の原子力発電所は400数基にもなる。今、全世界の電気エネルギーの16%は原子力発電によるもので、40%以上のエネルギーを原子力に依存する国も9つある。

しかし、長らく、特にチェルノブイリ原発事故以降、原子力発電の安全性が心配され続けている。2011年3月11日、宮城県の東方沖でマグニチュード9.0の地震が発生し、すぐさま津波が襲った。このため福島原子力発電所で一連の設備故障、メルトダウン、放射性物質漏出といった事

故が発生し、短期間では解決できない影響がもたらされている。事故の発生後、日本の 50 基の原子力発電所が全て運転を停止して安全検査を受けた。暫くは、“脱原発”の声が絶えなかった。福島放射能漏れ事故の影響により、世界各国は次々と原子力発電の推進戦略を見直している。

原子力発電はそれほど危険なのだろうか。

実際のところ、数十年来、全世界で数百基ある原子力発電所はほぼ安全で正常に運転されている。1979 年のスリーマイル島原子力発電所の事故、1986 年のチェルノブイリ原子力発電所の事故は深刻なものだったが、これらはいずれも人為的要素が原因である。前者の主な原因は操作ミスと機械故障であり、後者は主に沸騰水型原子炉の設計に欠陥があったことと、問題報告がスムーズに伝わらなかったことが主な原因だった。

改めて福島原発の事故を見てみよう。今年 7 月 5 日、国会の福島原子力発電所事故独立調査委員会は最終調査レポートを公表し、この注目が集まる放射能漏れ事故を天災ではなく人災であると特定した。報告によると、福島第一原発の問題は、東日本大震災が発生する前から存在していた。発電所には地震と津波による衝撃への耐性がなかったのだ。措置を取る機会があったにも関わらず、監督管機関と東京電力株式会社の管理者が対策を先送りし続けたことにより、この災難が起きてしまった。事故の根源は「管理監督体系が不完全な方策と行動体制を採用していたこと」にある。

これらのことから、人為的要素が排除できれば、上記の 3 事故はいずれも防げるものであったことが分かる。ほんの数件の事故で全面的に原子力を放棄するのは、食べ物がのどにつかえたことを理由に食事まで止めてしまうのと同じだ。

先史時代、人類の祖先は火を恐れていた。現代人の核に対する恐れに勝るとも劣らないものだったはずだ。考えてみれば、恐ろしいからといって火の利用を放棄していたら、人類は今でも原始生活を抜け出していなかっただろう。今の地球は大いに文明が発展している。原子力発電というエネルギーの利器は、科学的に、合理的に利用して幸福の元にすべきものであって、災いの元になどすべきものではない。

原子力発電の安全は、人にかかっている。十分に事故の教訓を吸収した上で、積極的に、確実に原子力発電所の建設を推進すべきなのだ。安全性を第一に、原子力の安全基準を全面的に引き上げ、発電所の安全監視を強化すること。そして、より先進的な原子力発電技術を採用し、安全リスクを最低限に抑えることである。